

鳥取県の推計人口（年報）

【令和2年10月～令和3年9月】

令和3年12月28日公表

鳥取県令和新時代創造本部統計課

目 次

用語の説明	1
利用上の注意	2
調査結果の概要	
I 鳥取県の推計人口	
1 推計人口と世帯数	3
2 年齢3区分別人口	4
II 人口動態	
1 概況	7
2 自然動態	
(1) 自然動態の推移	7
(2) 月別自然動態	8
3 社会動態	
(1) 社会動態の推移	8
(2) 月別社会動態	9
(3) 都道府県別(外国を含む)、男女別社会動態	9
(4) ブロック別の県外転入・転出	11
(5) 都道府県別(外国を含む)転入・転出超過数	11
(6) 年齢5歳階級別、男女別社会動態	12
III 市町村別推計人口	
1 市町村別の推計人口	13
2 年齢3区分別人口	
(1) 年少人口	14
(2) 生産年齢人口	14
(3) 老年人口	14
IV 市町村人口動態	
1 人口増減	15
2 自然動態	
(1) 市町村別自然動態	16
(2) 月別自然動態	17
(3) 男女別自然動態	17
3 社会動態	
(1) 市町村別社会動態	18
(2) 県内移動	19
(3) 県外転入・県外転出	20
(4) 4市における年齢5歳階級別、男女別県外転入転出	21
＜参考＞外国人(国籍不詳を含む)の推計人口	25

用語の説明

1 人口性比

女性を100としたときの男性の割合

2 年少人口

0歳～14歳の人口をいう。

3 生産年齢人口

15歳～64歳の人口をいう。

4 老年人口

65歳以上の人口をいう。

5 年少人口指数

年少人口の生産年齢人口に対する比率をいう。

$$\text{年少人口指数} = \frac{\text{年少人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

6 老年人口指数

老年人口の生産年齢人口に対する比率をいう。

$$\text{老年人口指数} = \frac{\text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

7 従属人口指数

年少人口と老年人口が生産年齢人口に対して占める比率をいう。

$$\text{従属人口指数} = \frac{\text{年少人口} + \text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

8 老年化指数

老年人口の年少人口に対する比率をいう。

$$\text{老年化指数} = \frac{\text{老年人口}}{\text{年少人口}} \times 100$$

9 動態

- (1) 人口動態…自然動態と社会動態を合わせた人口の動きをいう。
- (2) 自然動態…一定期間における出生及び死亡に伴う人口の動きをいう。
- (3) 社会動態…一定期間における転入及び転出に伴う人口の動きをいう。

10 移動

- (1) 移動者総数…県内移動者数(県内市町村間の転出入)と県外移動者数(県内外の転出入)を合計した数をいう。
- (2) 実移動者総数…県内市町村間の転入者数と県外移動者数を合計した数をいう。
- (3) 県内転入者数…県内の市町村から県内の他の市町村へ転入した者の数をいう。
- (4) 県内転出者数…県内の市町村から県内の他の市町村へ転出した者の数をいう。この調査の県内移動については、転入だけを調査している。このため転出については、従前の住所地(市町村)により、算出した数である。
- (5) 県外転入者数…県外(外国を含む)の市町村から県内の市町村へ転入した者の数をいう。
- (6) 県外転出者数…県内の市町村から県外(外国を含む)の市町村へ転出した者の数をいう。
- (7) 転入・転出超過数…転入者数から転出者数を差し引いた数で、プラスの場合を転入超過、マイナスの場合を転出超過という。

11 出生率及び死亡率

- (1) 出生率…人口に対する出生数の千分率(パーミル【‰】)をいう。
- (2) 死亡率…人口に対する死亡数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

1 2 移動者の年齢

令和3年10月1日現在の満年齢による。

1 3 自然増減数

出生者数から死亡者数を差し引いた数をいう。この場合、プラスは自然増加といい、マイナスは自然減少という。

1 4 自然増減率

人口に対する自然増減数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

1 5 社会増減数

転入者数から転出者数を差し引いた数をいう。この場合、プラスは社会増加といい、マイナスは社会減少という。

1 6 社会増減率

人口に対する社会増減数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

1 7 ブロック別区分

北海道…北海道

東 北…青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

関 東…茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

中 部…新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近 畿…滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中 国…島根県、岡山県、広島県、山口県

四 国…徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九 州…福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

1 8 地域別区分

東 部…鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町

中 部…倉吉市、三朝町、湯梨浜町、琴浦町、北栄町

西 部…米子市、境港市、日吉津村、大山町、南部町、伯耆町、日南町、日野町、江府町

1 9 市郡別

市 部…鳥取市、米子市、倉吉市、境港市

郡 部…岩美郡、八頭郡、東伯郡、西伯郡、日野郡

利 用 上 の 注 意

- 1 鳥取県人口移動調査は、「住民基本台帳法」の規定により届出された者を対象に、出生数及び死亡数、転入者数及び転出者数を、それぞれ住民票の異動日を基準として各月ごとに調査したものである。なお、県内移動については、転入日をもって転出日としている。
- 2 推計人口とは、令和2年国勢調査結果を基に、各市町村から報告のあった各月の調査結果より推計したものである。
- 3 平成27年国勢調査国勢調査結果に毎月の転入者等の届出数を加減した令和2年10月1日現在の推計人口及び世帯数と、令和2年国勢調査結果に差が生じているので、平成27年国勢調査結果までさかのぼり、平成27年11月以降の推計値を補正している。
- 4 人口及び世帯の移動数は、令和2年10月から令和3年9月までの年間数値であり、市町村表記は令和3年9月末現在のものにて記載している。

調査結果の概要

I 鳥取県の推計人口

1 推計人口と世帯数

鳥取県の推計人口は548,562人で、前年に比べ4,845人減少し、平成8年以降26年連続の減少となった。

令和3年10月1日現在の鳥取県の推計人口は548,562人で、前年に比べ4,845人減少した。

昭和50年(581,311人)以降の推移をみると、昭和63年の616,371人をピークに減少傾向となり、平成6年及び7年に増加したものの、平成8年以降は26年連続の減少となった。この間、平成20年に60万人台、平成22年に59万人台、平成25年に58万人台、平成28年に57万人台を割り、平成29年から平成30年は56万人台で推移し、令和元年では56万人台、令和3年では55万人台を割った。

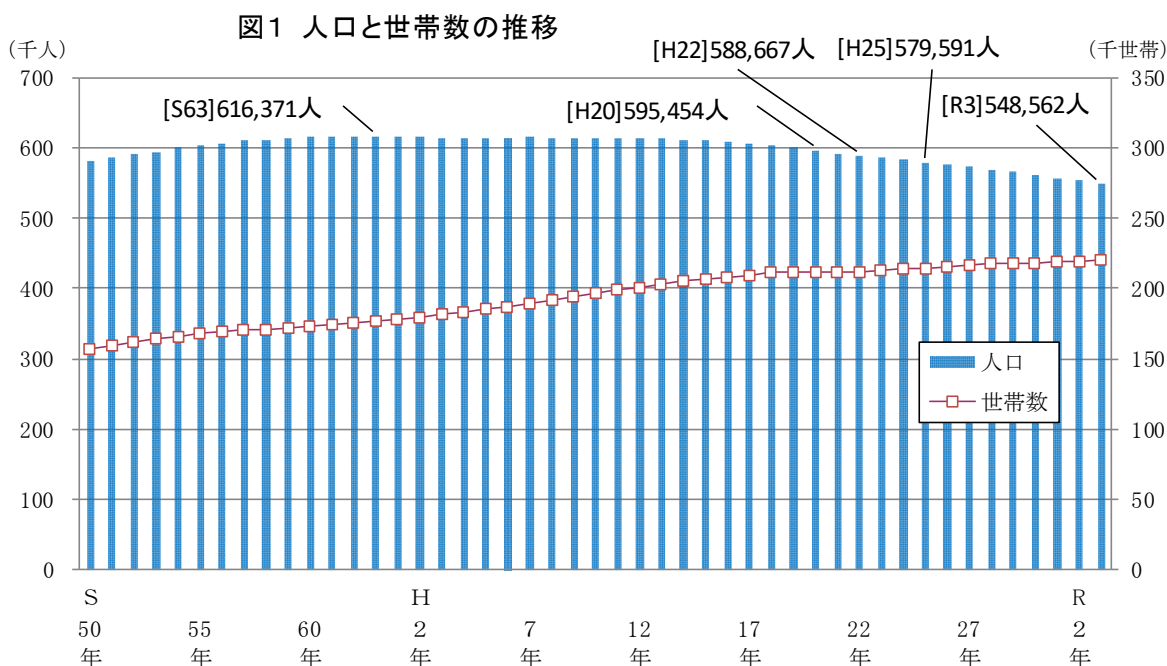
男女別人口をみると、男性262,227人、女性286,335人で、人口性比は91.6であった。

外国人の推計人口(国籍不詳を含む。以下同じ。)は9,230人(県の推計人口に占める割合は1.7%)で前年と比べ198人減少し、6年ぶりの減少となった。男女別に見ると、男性3,973人、女性5,257人で、人口性比は75.6であった。

世帯数は、220,693世帯で、この1年間で951世帯増加した。

昭和50年(156,826世帯)以降増加が続き、平成12年では20万世帯を超え、令和3年では過去最大となった。1世帯当たりの人員は2.49で減少が続いている。

(図1、表1、表2、統計表第1表)



注1)各年の人口は10月1日現在の人口による。

注2)表示年は国勢調査実施年で国勢調査人口、その他の年は国勢調査を基準として推計した人口である。

表1 推計人口と世帯数(過去5年間の推移)

(単位: 人、%、世帯)

年	人口			対前年				人口性比	世帯数	1世帯当たりの人員
	総数	男	女	総数	男	女	率			
H29年	6,993	2,858	4,135	767	368	399	12.32	69.1		
	566,073	270,361	295,712	-3,926	-1,693	-2,233	-0.69	91.4	218,059	2.60
H30年	7,858	3,308	4,550	865	450	415	12.37	72.7		
	561,777	268,353	293,424	-4,296	-2,008	-2,288	-0.76	91.5	218,280	2.57
R元年	8,864	3,757	5,107	1,006	449	557	12.80	73.6		
	557,343	266,334	291,009	-4,434	-2,019	-2,415	-0.79	91.5	218,841	2.55
R2年	9,428	4,045	5,383	564	288	276	6.36	75.1		
	553,407	264,432	288,975	-3,936	-1,902	-2,034	-0.71	91.5	219,742	2.52
R3年	9,230	3,973	5,257	-198	-72	-126	-2.10	75.6		
	548,562	262,227	286,335	-4,845	-2,205	-2,640	-0.88	91.6	220,693	2.49

注1) 上段は外国人で内数

注2) 外国人は国籍不詳を含む。

2 年齢3区分別人口

年齢3区分別の構成割合は、年少人口は12.4%、生産年齢人口は54.7%で過去最低、老年人口が32.9%で過去最高となった。

年齢3区分別にみると、年少人口は67,088人で前年（令和2年10月1日現在）に比べ1,242人減少、生産年齢人口は295,531人で4,471人減少、老年人口は177,914人で868人増加した。（年齢3区分人口に年齢不詳は含まない。以下同じ。）

昭和50年以降の推移をみると、年少人口は昭和60年の130,668人をピークに減少となり、平成12年では10万人を割り減少が続いている。生産年齢人口は昭和60年の400,717人まで増加を続けていたが、それ以降減少が続いている。老年人口は増加が続いており、平成7年に11万人台、平成28年からは17万人台となった。

人口構成割合を前年と比べると、年少人口は12.4%で0.1ポイント低下し、生産年齢人口は54.7%で0.3ポイント低下し、ともに過去最低となった。老年人口は32.9%で0.4ポイント上昇し、過去最高となった。

年齢構成指数を前年と比べると、生産年齢人口の扶養負担程度を表す従属人口指数（年少人口と老年人口の合計の生産年齢人口に対する比率）は82.9で1.1ポイント上昇、年少人口指数（年少人口の生産年齢人口に対する比率）は22.7で0.1ポイント低下、老年人口指数（老年人口の生産年齢人口に対する比率）は60.2で1.2ポイント上昇した。また、老年化指数（老年人口の年少人口に対する比率）は265.2で6.1ポイント上昇し、老年人口指数、従属人口指数及び老年化指数は過去最高となった。

（図2、図3、図4-1、図4-2、表2、表3、統計表第1表）

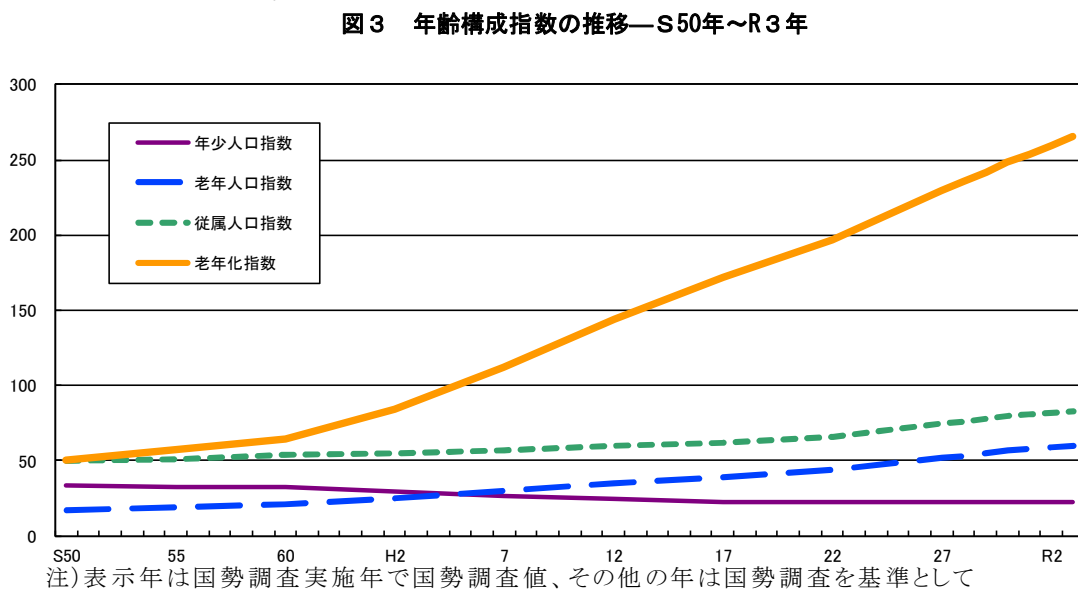
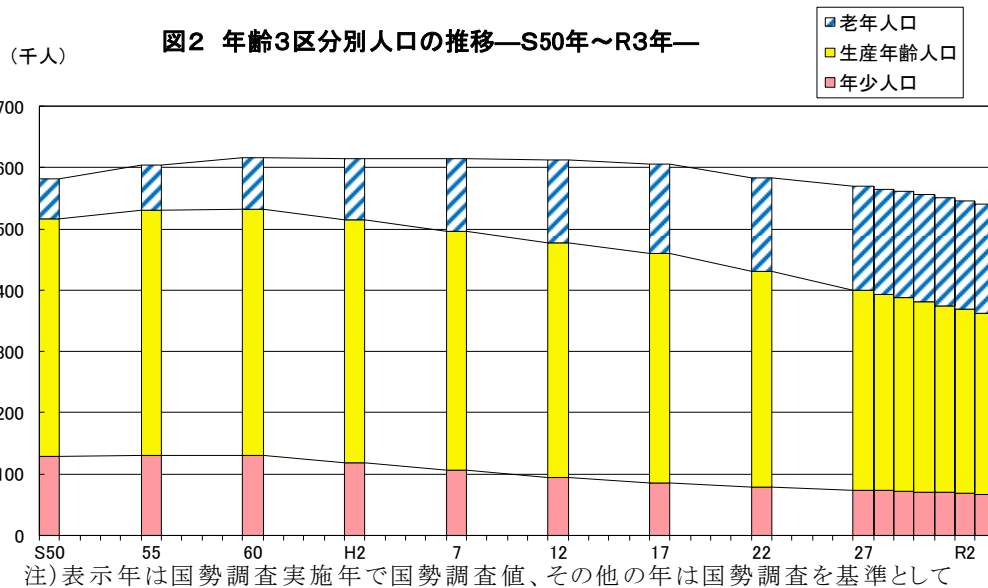


図4-1 人口ピラミッド

県全体 548,562人

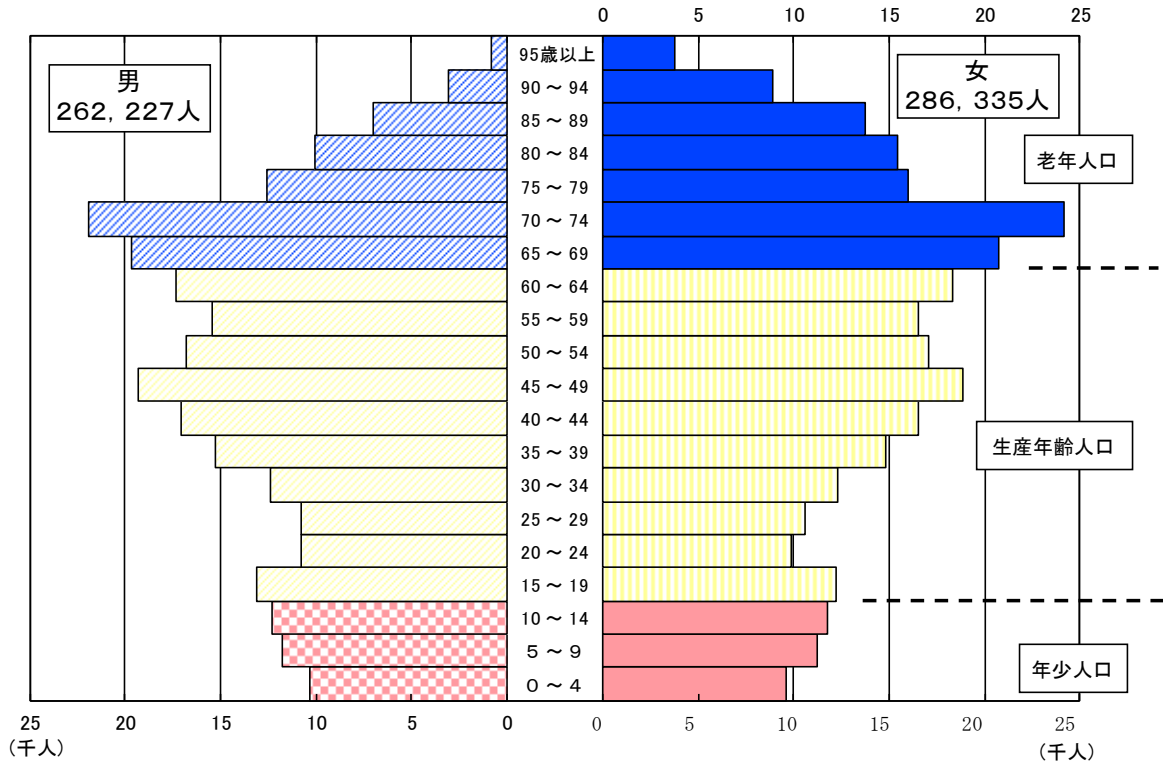
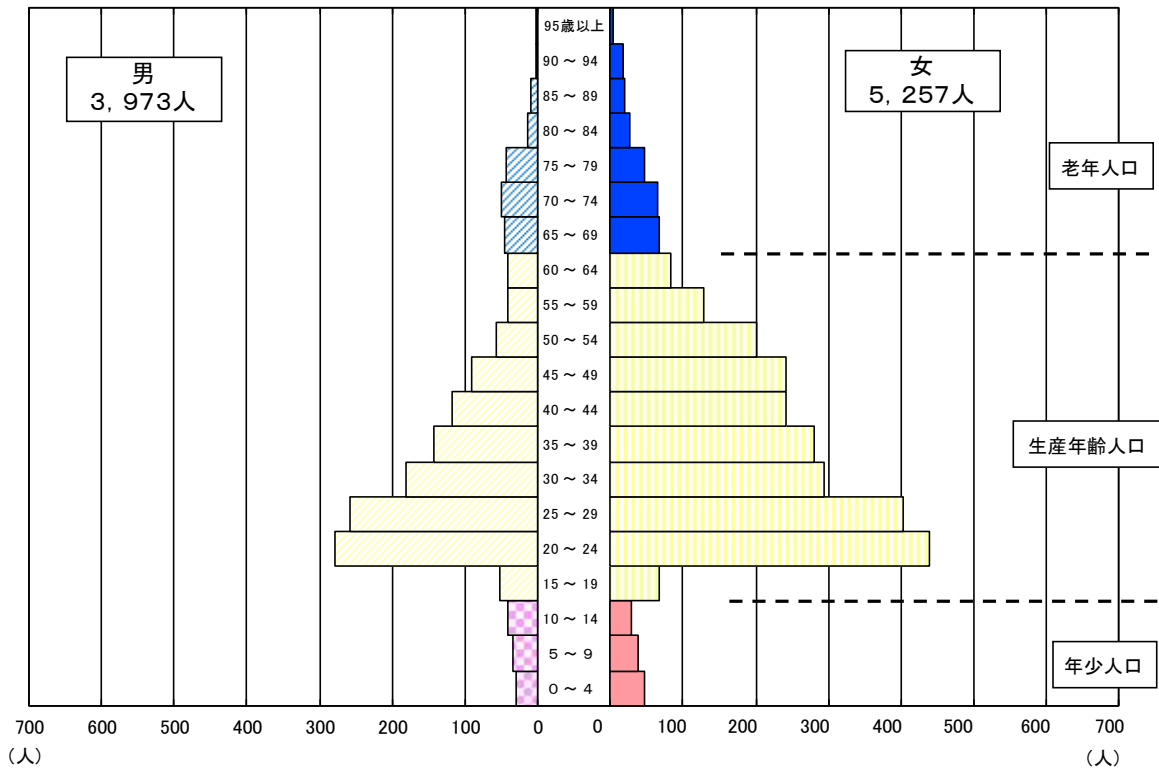


図4-2 人口ピラミッド(外国人)

県全体 9,230人



注) 外国人は国籍不詳を含む

表2 年齢5歳階級別人口

(単位:人)

年齢	総人口				うち外国人人口			
	総数	男	女	人口性比	総数	男	女	人口性比
総数	548,562	262,227	286,335	91.6	9,230	3,973	5,257	75.6
0～4歳	19,961	10,301	9,660	106.6	77	29	48	60.4
5～9	22,995	11,746	11,249	104.4	74	35	39	89.7
10～14	24,132	12,328	11,804	104.4	68	40	28	142.9
15～19	25,320	13,083	12,237	106.9	121	53	68	77.9
20～24	20,652	10,751	9,901	108.6	718	279	439	63.6
25～29	21,425	10,789	10,636	101.4	660	258	402	64.2
30～34	24,729	12,397	12,332	100.5	475	182	293	62.1
35～39	30,142	15,289	14,853	102.9	422	142	280	50.7
40～44	33,611	17,052	16,559	103.0	358	117	241	48.5
45～49	38,154	19,275	18,879	102.1	331	90	241	37.3
50～54	33,868	16,804	17,064	98.5	257	56	201	27.9
55～59	31,992	15,474	16,518	93.7	169	40	129	31.0
60～64	35,638	17,307	18,331	94.4	125	41	84	48.8
65～69	40,384	19,633	20,751	94.6	112	45	67	67.2
70～74	46,062	21,940	24,122	91.0	117	51	66	77.3
75～79	28,618	12,616	16,002	78.8	91	43	48	89.6
80～84	25,471	10,061	15,410	65.3	41	14	27	51.9
85～89	20,790	7,012	13,778	50.9	30	9	21	42.9
90～94	11,994	3,098	8,896	34.8	19	2	17	11.8
95歳以上	4,595	798	3,797	21.0	6	1	5	20.0
不詳	8,029	4,473	3,556	125.8	4,959	2,446	2,513	97.3

注1) 外国人は国籍不詳を含む。

注2) 各歳別に年齢不詳は含まない。

表3 年齢3区分別人口

(単位:人、%)

年齢	総人口		うち外国人人口	
	年齢3区分別人口	年齢3区分別人口割合	年齢3区分別人口	年齢3区分別人口割合
年少人口(0～14歳)	67,088	12.4	219	5.1
生産年齢人口(15～64歳)	295,531	54.7	3,636	85.1
老年人口(65歳以上)	177,914	32.9	416	9.7
うち75歳以上	91,468	16.9	187	4.4

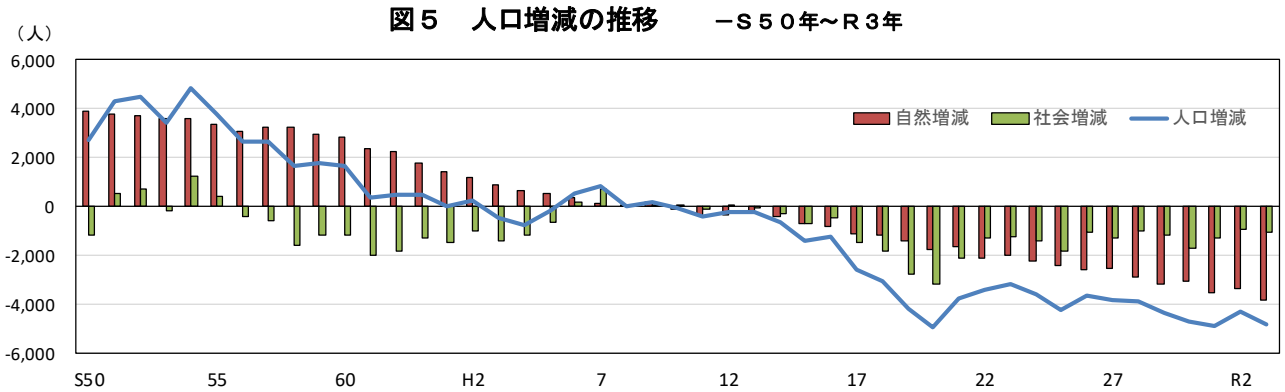
注) 割合は、小数第二位以下を四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合がある。

II 人口動態

1 概況

1年間の人口動態は、自然増減、社会増減ともに減少し、減少幅は前年に比べ584人拡大した。

令和3年（令和2年10月～令和3年9月）の1年間の人口動態をみると、自然増減は3,795人の減少、社会増減は1,050人の減少、合計4,845人の減少となり、減少幅は前年に比べ584人拡大した。（図5、統計表第3表）



注)各年の数値は前年10月～当年9月の集計による。

2 自然動態

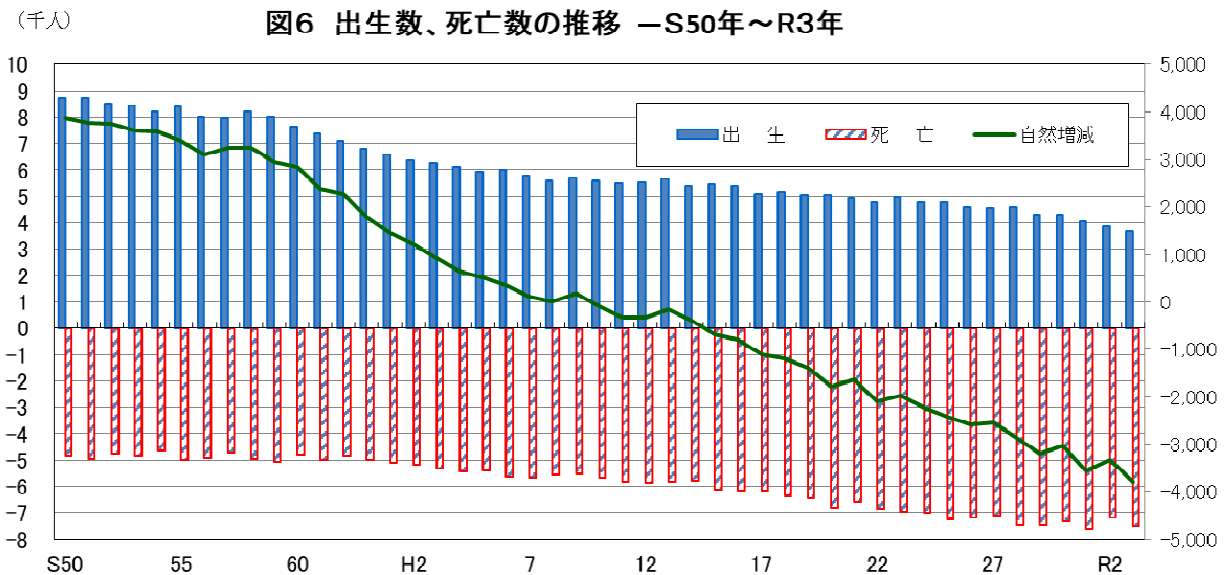
(1) 自然動態の推移

自然増減は、3,795人減少し、24年連続の減少となった。

出生数は昭和50年（8,735人）以降減少傾向となり、昭和63年からは6,000人台、平成5年からは5,000人台、平成21年からは4,000人台、令和2年からは3,000人台となり、令和3年は3,698人で前年に比べ154人減少した。

死亡数は、平成2年ごろまでは5,000人前後を推移していたが、それ以降は増加傾向となっている。平成15年からは6,000人台、平成25年からは7,000人台となり、令和3年は7,493人で前年に比べ314人増加した。

自然増減は3,795人の減少となり、減少幅は前年に比べ468人拡大し、24年連続の減少となった。（図6、統計表第3表）



注)各年の数値は前年10月～当年9月の集計による。

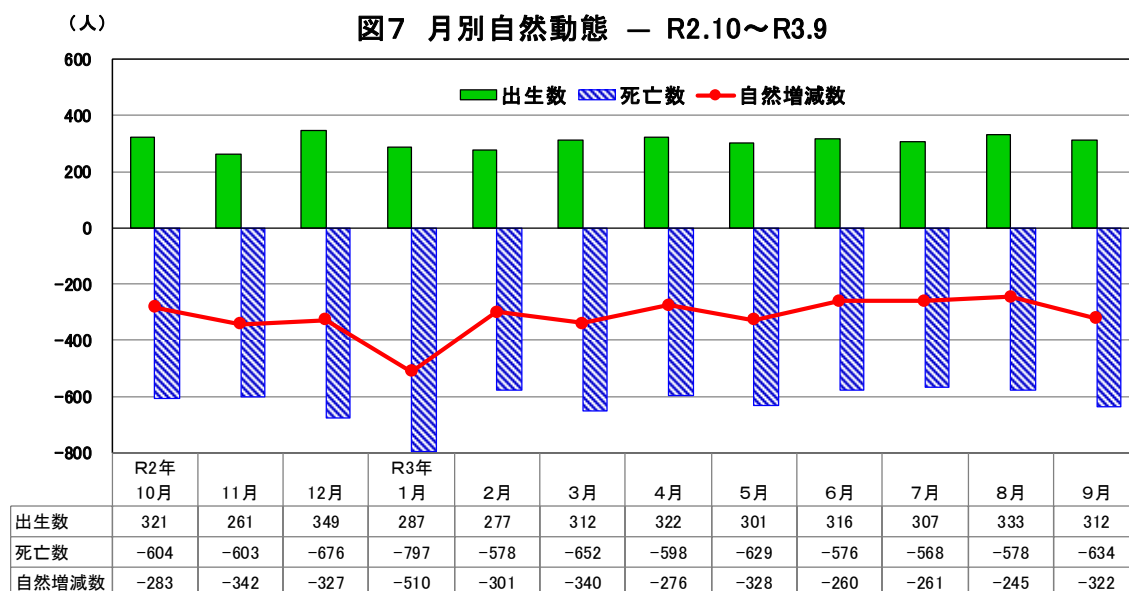
(2) 月別自然動態

自然増減はすべての月で減少となり、1月の減少数が最も多い。

月別にみると、出生数は令和2年12月の349人（出生総数に占める割合9.4%）が最も多く、次いで令和3年8月の333人（同9.0%）、令和3年4月の322人（同8.7%）であった。

死亡数は令和3年1月の797人（死亡総数に占める割合10.6%）が最も多く、次いで令和2年12月の676人（同9.0%）、令和3年3月の652人（同8.7%）であった。

自然増減数はすべての月で減少となり、減少数は令和3年1月の510人が最も多かった。（図7、統計表第4表）



3 社会動態

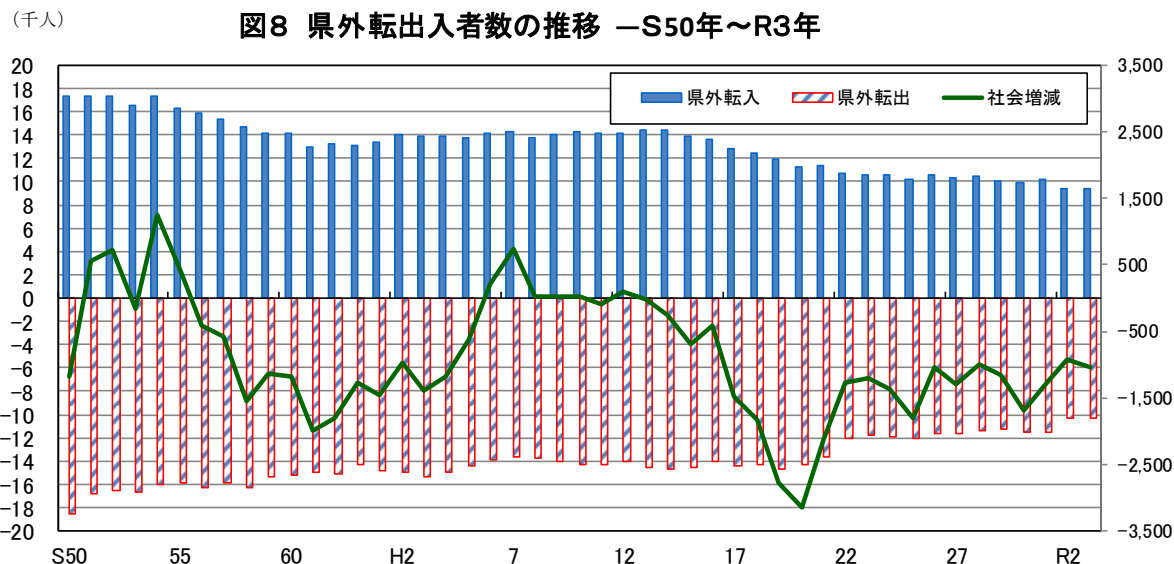
(1) 社会動態の推移

社会増減は、1,050人減少し、21年連続の減少となった。

令和3年（令和2年10月～令和3年9月）の県外転入者は9,334人、県外転出者は10,384人で社会増減は1,050人減少した。県内の市町村間を移動した者（県内移動者）は5,699人で実移動者総数は25,417人であった。

前年と比べると、県外転入者が89人減少、県外転出者が27人増加し、社会増減の減少数が116人拡大した。また、県内移動者が192人減少し、実移動者総数が254人減少した。

社会動態の推移をみると、昭和50年以降転入・転出ともに減少傾向となり、社会増減数は平成13年以降21年連続で減少した。（図8、統計表第3表、統計表第7表）



注) 各年の数値は前年10月～当年9月の集計による。

(2) 月別社会動態

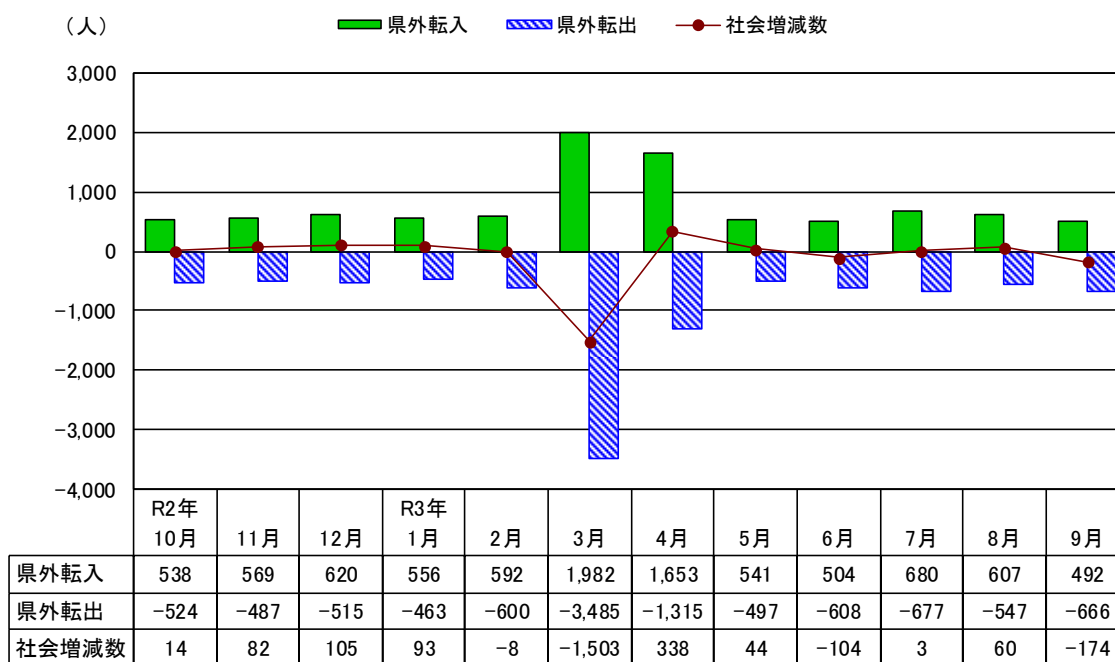
3月及び4月の2か月間で、年間実移動者総数の41.2%を占める。

月別にみると、県外転入者は3月の1,982人(県外転入者総数に占める割合21.2%)が最も多く、次いで4月の1,653人(同17.7%)、7月の680人(同7.3%)であった。

県外転出者は3月の3,485人(県外転出者総数に占める割合33.6%)が最も多く、次いで4月の1,315人(同12.7%)、7月の677人(同6.5%)であった。

この結果、4月が338人増加し、3月が1,503人減少し、この2か月間で年間実移動者総数の41.2%を占めている。(図9、統計表第6表)

図9 月別県外転出入者数 — R2.10月～R3.9月



(3) 都道府県別(外国を含む)、男女別社会動態

県外転入者数は島根県が1,304人、県外転出者数は大阪府が1,177人と最も多い。

都道府県別(外国を含む)にみると、県外転入者は島根県の1,304人(男性683人、女性621人)が最も多く、次いで大阪府の930人(男性488人、女性442人)、岡山県の892人(男性498人、女性394人)であった。

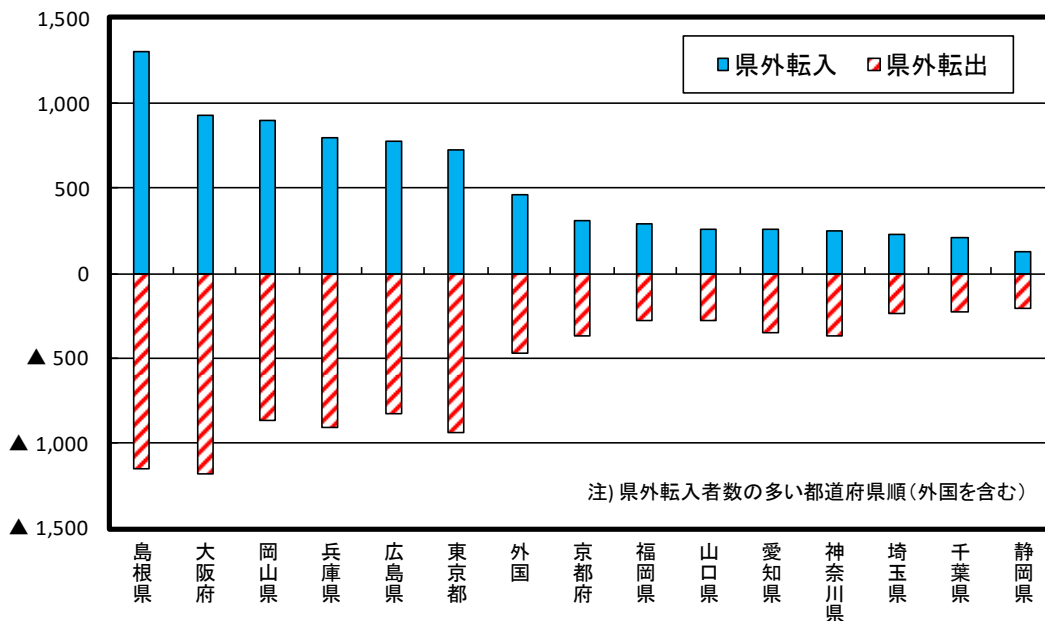
県外転出者は大阪府の1,177人(男性589人、女性588人)が最も多く、次いで島根県の1,152人(男性647人、女性505人)、東京都の939人(男性504人、女性435人)であった。

また、男女別にみると、男性の県外転入者は島根県の683人が最も多く、次いで岡山県の498人、大阪府の488人であり、県外転出者は島根県の647人が最も多く、次いで大阪府の589人、広島県の508人であった。

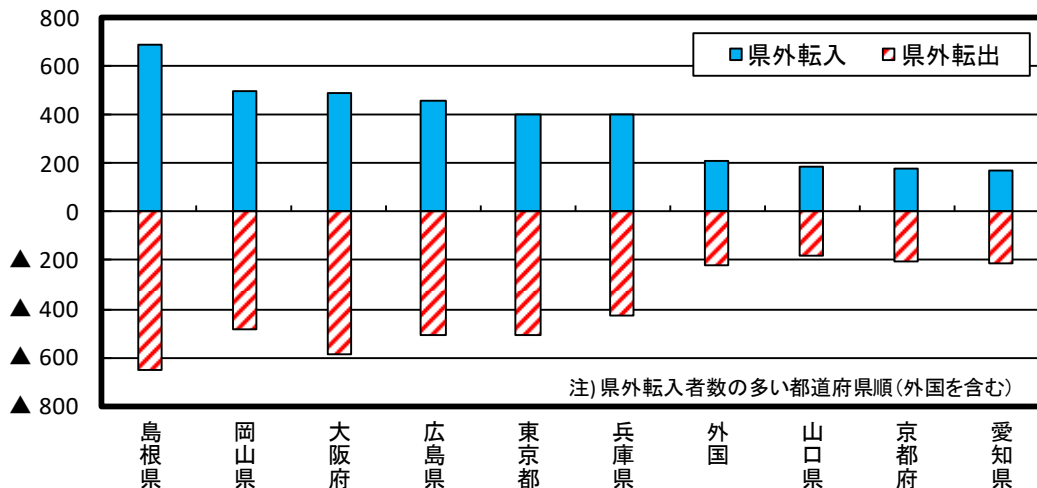
女性の県外転入者は島根県の621人が最も多く、次いで大阪府の442人、兵庫県の398人であり、県外転出者は大阪府の588人が最も多く、次いで島根県の505人、兵庫県の485人であった。

(図10-1、図10-2、図10-3、統計表第14表)

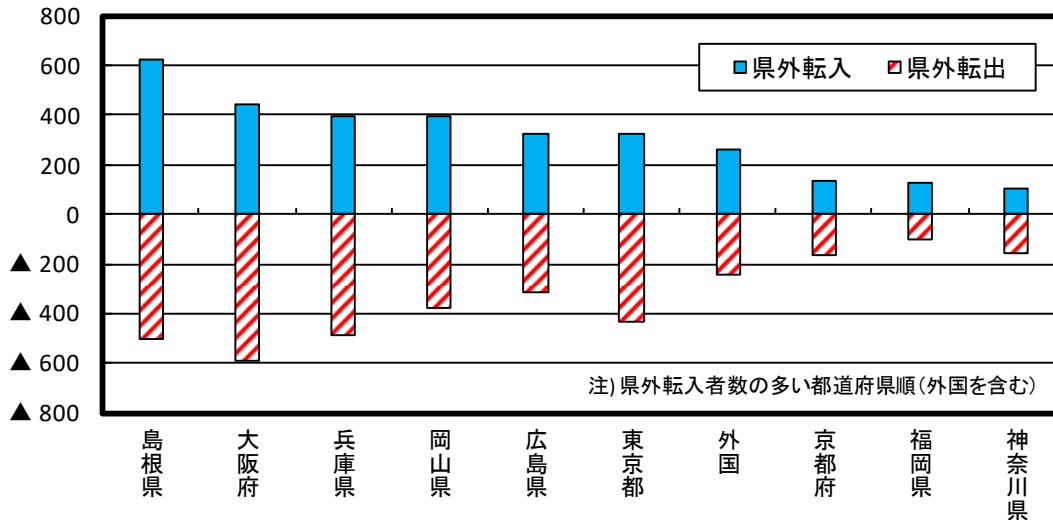
(人) 図10-1 従前の住所地及び転出地の都道府県別転入・転出者数上位15都道府県(総数)



(人) 図10-2 従前の住所地及び転出地の都道府県別転入・転出者数上位10都道府県(男)



(人) 図10-3 従前の住所地及び転出地の都道府県別転入・転出者数上位10都道府県(女)



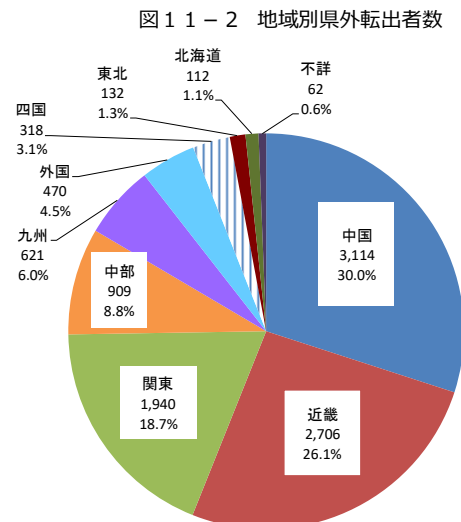
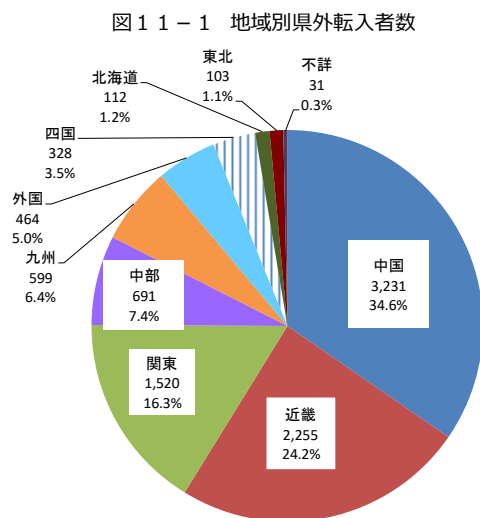
(4) ブロック別の県外転入・転出

ブロック別の県外転入・転出者数とも中国ブロックが最多で、次いで近畿ブロック

ブロック別にみると、県外転入者は中国ブロックの3,231人（男性1,819人、女性1,412人）が最も多く、次いで近畿ブロックの2,255人（男性1,179人、女性1,076人）、関東の1,520人（男性874人、女性646人）であった。

県外転出者は中国ブロックの3,114人（男性1,822人、女性1,292人）が最も多く、次いで近畿ブロックの2,706人（男性1,362人、女性1,344人）、関東ブロックの1,940人（男性1,071人、女性869人）であった。

(図11-1、図11-2)



注) 全国地域区分別の構成都道府県は、以下のとおり。

- 北海道: 北海道
- 東北: 青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
- 関東: 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
- 中部: 新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重
- 近畿: 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
- 中国: 鳥根、岡山、広島、山口
- 四国: 徳島、香川、愛媛、高知
- 九州: 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

(5) 都道府県別（外国を含む）転入・転出超過数

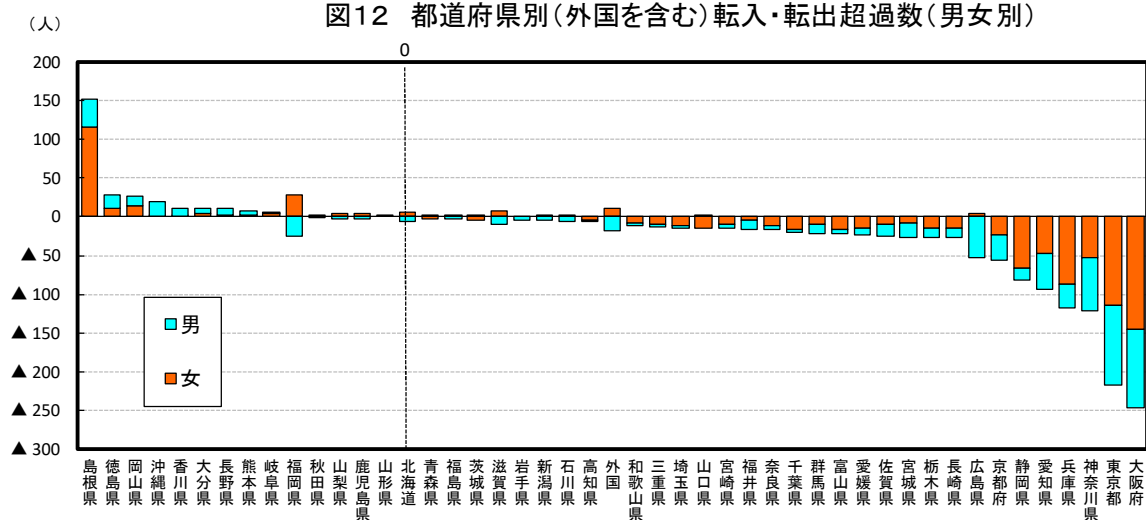
転入超過数は島根県の152人、転出超過数は大阪府の247人が最も多い。

転入超過数は、島根県の152人（男性36人、女性116人）が最も多く、次いで徳島県の28人（男性17人、女性11人）、岡山県の27人（男性13人、女性14人）であった。

転出超過数は、大阪府の247人（男性101人、女性146人）が最も多く、次いで東京都の217人（男性102人、女性115人）、神奈川県121人（男性69人、女性52人）であった。

(図12、統計表第14表)

図12 都道府県別(外国を含む)転入・転出超過数(男女別)



(6) 年齢5歳階級別、男女別社会動態

0～4歳が最も増加し、20～24歳が最も減少

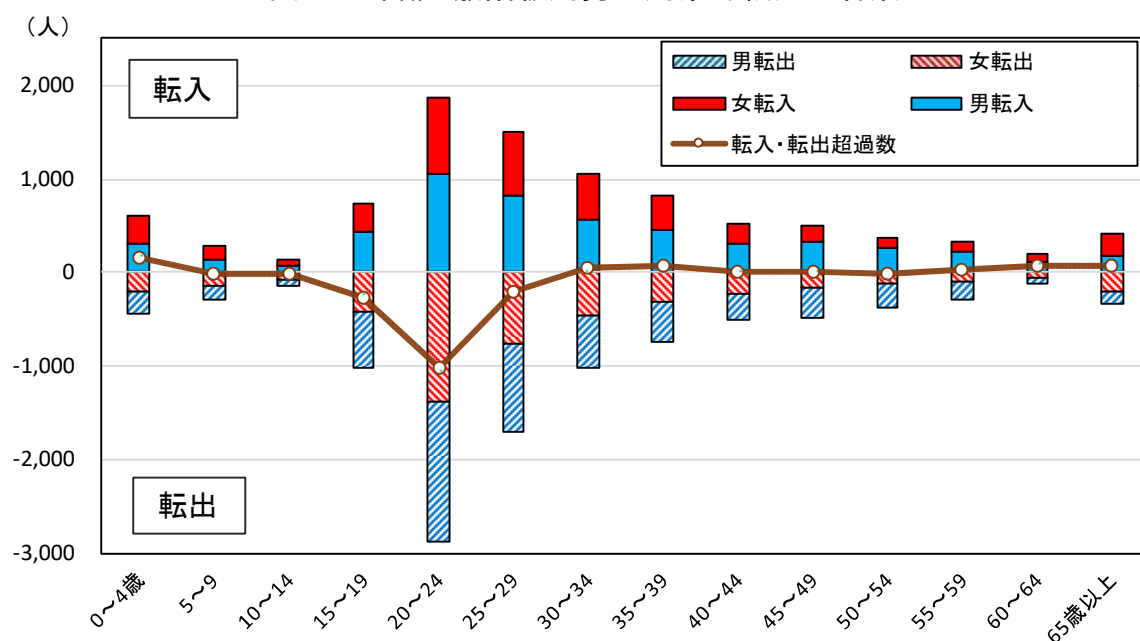
年齢5歳階級別にみると、県外転入者は男女とも20～24歳が最も多く（男性1,048人：男性の県外転入者総数に占める割合が20.0%、女性829人：女性の県外転入者総数に占める割合が20.3%）、次いで男女とも25～29歳（男性829人：同15.8%、女性673人：同16.4%）であった。

県外転出者は男女とも20～24歳が最も多く（男性1,500人：同26.0%、女性1,389人：同30.1%）、次いで男女とも25～29歳（男性930人：同16.1%、女性771人：同16.7%）であった。

県外転入転出により、0～4歳が最も増加（167人：男性58人、女性109人）、20～24歳が最も減少し（1,012人：男性452人、女性560人）、年間実移動者総数をみると、20～34歳が全体の49.7%を占めている。

(図13、統計表第7表、第15表)

図13 年齢5歳階級別男女別県外転出入者数



Ⅲ 市町村別推計人口

1 市町村別の推計人口

推計人口が最も多いのは鳥取市の187,238人、最も少ないのは江府町の2,595人

市郡別にみると、市部の推計人口は412,220人（男性197,426人、女性214,794人：県人口に占める割合75.1%）で、郡部の推計人口は136,342人（男性64,801人、女性71,541人：同24.9%）であった。

市部で推計人口が最も多いのは、鳥取市の187,238人（男性90,767人、女性96,471人：同34.1%）で、次いで米子市の146,753人（男性69,497人、女性77,256人：同26.8%）であった。

郡部で推計人口が最も多いのは、琴浦町の16,066人（男性7,577人、女性8,489人：同2.9%）で、次いで湯梨浜町の15,945人（男性7,608人、女性8,337人：同2.9%）であった。

また、最も少ないのは、江府町の2,595人（男性1,199人、女性1,396人：同0.5%）で、次いで若桜町の2,767人（男性1,310人、女性1,457人：同0.5%）であった。

過去5年間（平成29年～令和3年）の市町村別の推計人口の推移をみると、日吉津村を除く18市町で減少している。

日吉津村は平成28年以降増加が続き、令和元年は減少したものの、令和2年から増加に転じた。

（表4、統計表第8表、第8-1表）

表4 市町村別年齢3区分別人口と世帯数（過去5年間の推移）

（単位：人、世帯）

区分	総人口					年齢3区分別人口			世帯数	1世帯当たりの人員
	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	年少人口	生産年齢人口	老年人口		
市計	422,140	419,547	417,003	415,007	412,220	51,535	228,037	124,775	171,468	2.40
郡計	143,933	142,230	140,340	138,400	136,342	15,553	67,494	53,139	49,225	2.77
東部地区	229,752	227,843	225,945	224,492	222,529	26,979	122,455	69,513	90,131	2.47
中部地区	102,357	101,369	100,367	99,193	97,932	12,167	50,448	34,787	37,154	2.64
西部地区	233,964	232,565	231,031	229,722	228,101	27,942	122,628	73,614	93,408	2.44
鳥取市	191,913	190,558	189,364	188,465	187,238	23,263	104,938	55,464	77,411	2.42
米子市	148,744	148,298	147,715	147,317	146,753	18,873	81,613	42,552	62,689	2.34
倉吉市	48,004	47,475	46,991	46,485	45,828	5,544	23,828	16,015	18,239	2.51
境港市	33,479	33,216	32,933	32,740	32,401	3,855	17,658	10,744	13,129	2.47
岩美町	11,287	11,144	10,967	10,799	10,655	1,151	5,408	4,091	3,907	2.73
若桜町	3,130	3,055	2,941	2,864	2,767	181	1,201	1,384	1,159	2.39
智頭町	6,929	6,725	6,568	6,427	6,251	602	2,857	2,792	2,341	2.67
八頭町	16,493	16,361	16,105	15,937	15,618	1,782	8,051	5,782	5,313	2.94
三朝町	6,335	6,241	6,156	6,060	5,915	660	2,849	2,392	2,208	2.68
湯梨浜町	16,346	16,310	16,204	16,055	15,945	2,226	8,455	5,214	5,749	2.77
琴浦町	17,034	16,793	16,573	16,365	16,066	1,948	8,078	6,038	5,914	2.72
北栄町	14,638	14,550	14,443	14,228	14,178	1,789	7,238	5,128	5,044	2.81
日吉津村	3,499	3,573	3,497	3,501	3,532	510	1,981	1,012	1,256	2.81
大山町	16,000	15,810	15,642	15,370	15,110	1,661	7,241	6,208	5,223	2.89
南部町	10,767	10,615	10,479	10,323	10,208	1,140	5,161	3,903	3,531	2.89
伯耆町	10,929	10,809	10,763	10,696	10,590	1,259	5,007	4,301	3,673	2.88
日南町	4,505	4,388	4,288	4,196	4,090	277	1,651	2,160	1,764	2.32
日野町	3,150	3,066	3,002	2,907	2,822	173	1,198	1,451	1,197	2.36
江府町	2,891	2,790	2,712	2,672	2,595	194	1,118	1,283	946	2.74

2 年齢3区分別人口

(1) 年少人口

前年と比べると、年少人口は岩美町、日吉津村及び江府町で増加、年少人口割合は2町で上昇

年少人口は鳥取市の23,263人が最も多く、次いで米子市の18,873人であった。前年と比べると、岩美町、日吉津村及び江府町で増加し、その他の市町で減少した。

年少人口割合は日吉津村の14.6%が最も高く、次いで湯梨浜町の14.0%であった。前年と比べると、岩美町及び江府町で上昇し、境港市、三朝町、琴浦町、北栄町、日吉津村及び大山町で同水準、鳥取市など11市町で低下した。

(図14、統計表第10表、10-1表、10-2表、10-3表)

(2) 生産年齢人口

前年と比べると、生産年齢人口は日吉津村を除くすべての市町で減少、生産年齢人口割合はすべての市町村で低下

生産年齢人口は鳥取市の104,938人が最も多く、次いで米子市の81,613人であった。前年と比べると、日吉津村を除くすべての市町で減少した。

生産年齢人口割合は鳥取市及び米子市の57.1%が最も高く、次いで日吉津村の56.6%であった。前年と比べると、すべての市町村で低下した。

(図14、統計表第10表、10-1表、10-2表、10-3表)

(3) 老年人口

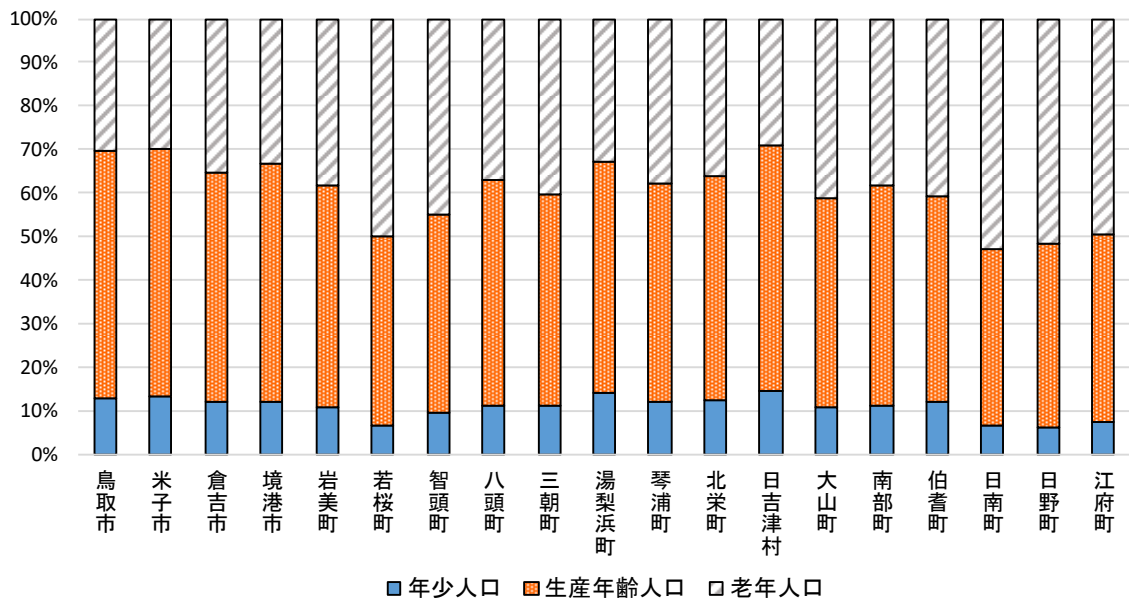
前年と比べると、老年人口は11市町村で増加、老年人口割合はすべての市町村で上昇

老年人口は鳥取市の55,464人が最も多く、次いで米子市の42,552人であった。前年と比べると、鳥取市など11市町村で増加し、倉吉市など8市町で減少した。

老年人口割合は日南町の52.8%が最も高く、次いで日野町の51.4%であった。前年と比べると、全市町村で上昇した。

(図14、統計表第10表、10-1表、10-2表、10-3表)

図14 市町村別年齢3区分別人口割合



IV 市町村人口動態

1 人口増減

人口増減は日吉津村を除くすべての市町で人口が減少

令和3年（令和2年10月～令和3年9月）の1年間の市町村別の人口増減をみると、増加したのは日吉津村の31人（自然増加7人、社会増加24人）で、他の18市町は減少し、最も減少したのは鳥取市の1,227人（自然減少946人、社会減少281人）、次いで倉吉市の657人（自然減少377人、社会減少280人）、米子市の564人（自然減少632人、社会増加68人）、境港市の339人（自然減少262人、社会減少77人）であった。

また、増減率をみると、増加したのは日吉津村の0.89%で、他の18市町は減少し、最も減少したのは若桜町の3.39%、次いで日野町の2.92%、江府町の2.88%、智頭町の2.74%であった。（表5、統計表第8表）

表5 市町村別人口増減

（単位：人）

	自然増減			社会増減			人口増減数
	出生数	死亡数	増減数	転入者数	転出者数	増減数	
県計	3,698	7,493	-3,795	15,033	16,083	-1,050	-4,845
鳥取市	1,311	2,257	-946	4,326	4,607	-281	-1,227
米子市	1,148	1,780	-632	4,961	4,893	68	-564
倉吉市	304	681	-377	1,189	1,469	-280	-657
境港市	187	449	-262	1,164	1,241	-77	-339
岩美町	66	158	-92	278	330	-52	-144
若桜町	3	72	-69	57	85	-28	-97
智頭町	26	139	-113	143	206	-63	-176
八頭町	73	266	-193	302	428	-126	-319
三朝町	19	133	-114	123	154	-31	-145
湯梨浜町	131	227	-96	448	462	-14	-110
琴浦町	106	266	-160	341	480	-139	-299
北栄町	92	203	-111	403	342	61	-50
日吉津村	36	29	7	183	159	24	31
大山町	68	287	-219	367	408	-41	-260
南部町	48	146	-98	251	268	-17	-115
伯耆町	46	142	-96	255	265	-10	-106
日南町	12	111	-99	99	106	-7	-106
日野町	10	72	-62	83	106	-23	-85
江府町	12	75	-63	60	74	-14	-77

2 自然動態

(1) 市町村別自然動態

自然増減は日吉津村を除くすべての市町で減少

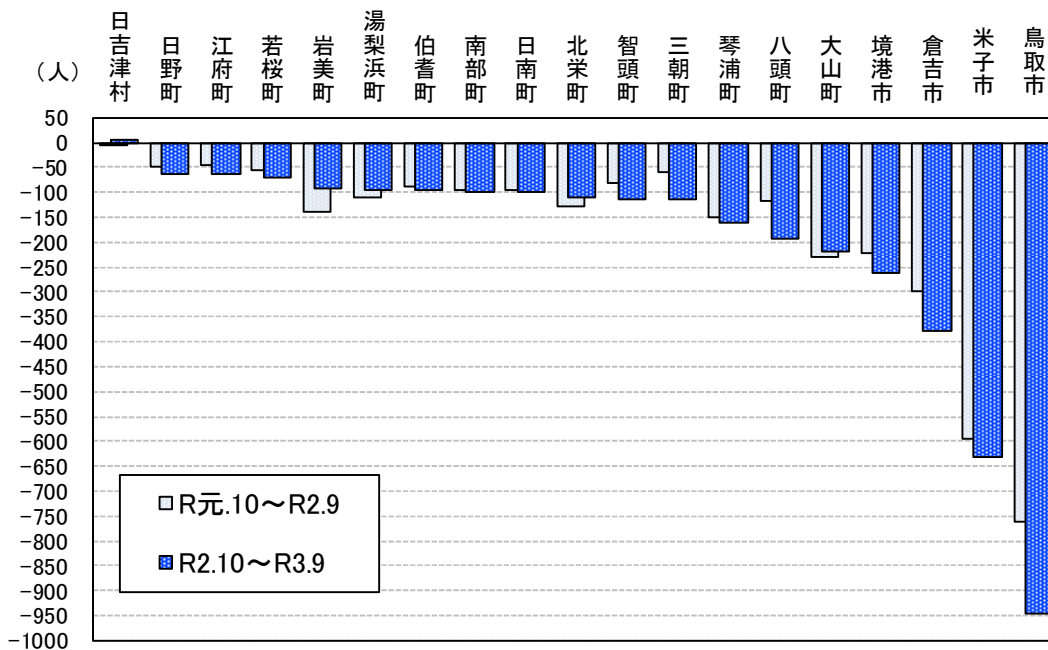
自然増減を市町村別にみると、日吉津村を除くすべての市町で減少した。

増加したのは日吉津村の7人（出生数36人、死亡数29人）で、最も多く減少したのは鳥取市の946人（出生数1,311人、死亡数2,257人）、次いで米子市の632人（出生数1,148人、死亡数1,780人）であった。

自然増減率（対1,000人比）をみると、増加したのは日吉津村の2.0‰で、最も減少したのは若桜町の24.9‰、次いで江府町の24.3‰であった。

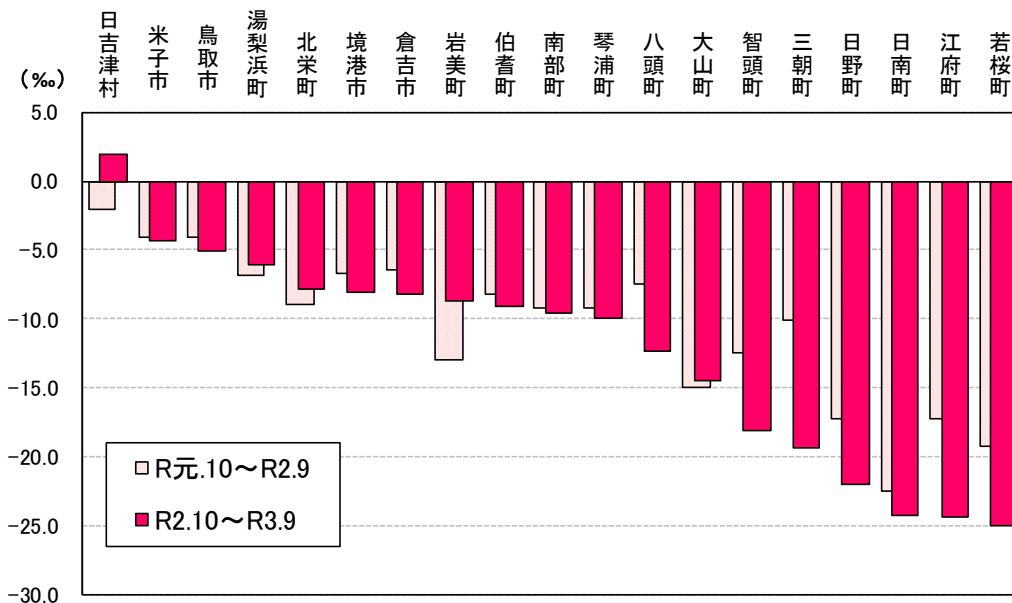
（図15-1、図15-2、統計表第11表）

図15-1 市町村別自然増減数



※各年の数値は前年10月～当年9月の集計による。

図15-2 市町村別自然増減率



※各年の数値は前年10月～当年9月の集計による。

(2) 月別自然動態

出生数は12月の鳥取市の129人、死亡数は1月の鳥取市の245人が最も多い。

月別にみると、出生数は12月の鳥取市の129人（総出生数に占める割合3.5%）が最も多く、次いで10月の鳥取市の122人（同3.3%）、5月の鳥取市の117人（同3.2%）であった。

死亡数は1月の鳥取市の245人（総死亡数に占める割合3.3%）が最も多く、次いで12月の鳥取市の218人（同2.9%）、3月の鳥取市の198人（同2.6%）であった。

(表6)

(3) 男女別自然動態

男女の出生数・死亡数とも鳥取市が最も多かった。

市町村別の男女別をみると、男性の出生数は鳥取市の672人が最も多く、次いで米子市の584人、倉吉市の168人、境港市の94人であった。死亡数は鳥取市の1,094人が最も多く、次いで米子市の861人、倉吉市の317人、境港市の240人であった。

女性の出生数は鳥取市の639人が最も多く、次いで米子市の564人、倉吉市の136人、境港市の93人であった。死亡数は鳥取市の1,163人が最も多く、次いで米子市の919人、倉吉市の364人、境港市の209人であった。

また、最も少なかった出生数は、男性では若桜町の3人、女性では若桜町の出生なし、死亡数は、男性では日吉津村の14人、女性では日吉津村の15人であった。

(表6、統計表第11表)

表6 月別男女別自然動態 —R2年10月～R3年9月—

(単位:人)

		計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
県計	出生数	男	1,927	158	134	184	137	150	155	168	170	180	153	184	154
		女	1,771	163	127	165	150	127	157	154	131	136	154	149	158
		総数	3,698	321	261	349	287	277	312	322	301	316	307	333	312
	死亡数	男	3,606	297	294	332	391	270	312	284	303	268	281	260	314
		女	3,887	307	309	344	406	308	340	314	326	308	287	318	320
		総数	7,493	604	603	676	797	578	652	598	629	576	568	578	634
鳥取市	出生数	男	672	63	41	74	49	54	54	55	65	60	48	60	49
		女	639	59	52	55	57	47	58	45	52	52	55	49	58
		総数	1,311	122	93	129	106	101	112	100	117	112	103	109	107
	死亡数	男	1,094	95	90	111	121	86	90	85	84	84	76	89	83
		女	1,163	100	93	107	124	91	108	99	83	86	87	102	83
		総数	2,257	195	183	218	245	177	198	184	167	170	163	191	166
米子市	出生数	男	584	38	41	43	41	46	55	58	50	55	48	57	52
		女	564	60	38	54	45	39	41	43	35	43	60	51	55
		総数	1,148	98	79	97	86	85	96	101	85	98	108	108	107
	死亡数	男	861	64	67	78	96	66	89	70	78	62	56	60	75
		女	919	56	82	87	95	64	97	65	85	67	58	77	86
		総数	1,780	120	149	165	191	130	186	135	163	129	114	137	161
倉吉市	出生数	男	168	14	12	18	11	12	10	16	11	21	11	18	14
		女	136	14	12	10	13	15	15	11	7	14	6	11	8
		総数	304	28	24	28	24	27	25	27	18	35	17	29	22
	死亡数	男	317	22	29	23	28	18	24	36	34	21	29	22	31
		女	364	25	31	36	37	31	29	30	30	31	28	25	31
		総数	681	47	60	59	65	49	53	66	64	52	57	47	62
境港市	出生数	男	94	7	7	6	8	4	12	5	9	11	6	10	9
		女	93	3	3	12	10	7	10	11	9	5	5	10	8
		総数	187	10	10	18	18	11	22	16	18	16	11	20	17
	死亡数	男	240	23	20	28	21	15	17	17	23	21	22	17	16
		女	209	16	19	18	25	13	21	15	19	19	12	16	16
		総数	449	39	39	46	46	28	38	32	42	40	34	33	32

3 社会動態

(1) 市町村別社会動態

社会増減は米子市、北栄町及び日吉津村を除く市町で減少

社会増減を市町村別にみると、米子市、北栄町及び日吉津村を除く市町で減少した。増加したのは米子市の68人（男性34人、女性34人）が最も増加し、次いで北栄町の61人（男性18人、女性43人）であった。減少したのは鳥取市の281人（男性167人、女性114人）が最も減少し、次いで倉吉市の280人（男性137人、女性143人）であった。

社会増減率（対1,000人比）をみると、最も増加したのは日吉津村の6.8‰で、次いで北栄町の4.3‰、米子市の0.5‰、その他の市町は減少し、最も減少したのは若桜町及び智頭町の10.1‰、次いで琴浦町の8.7‰であった。

（図16-1、図16-2、表7、統計表第12表、第15表）

図16-1 市町村別社会増減数

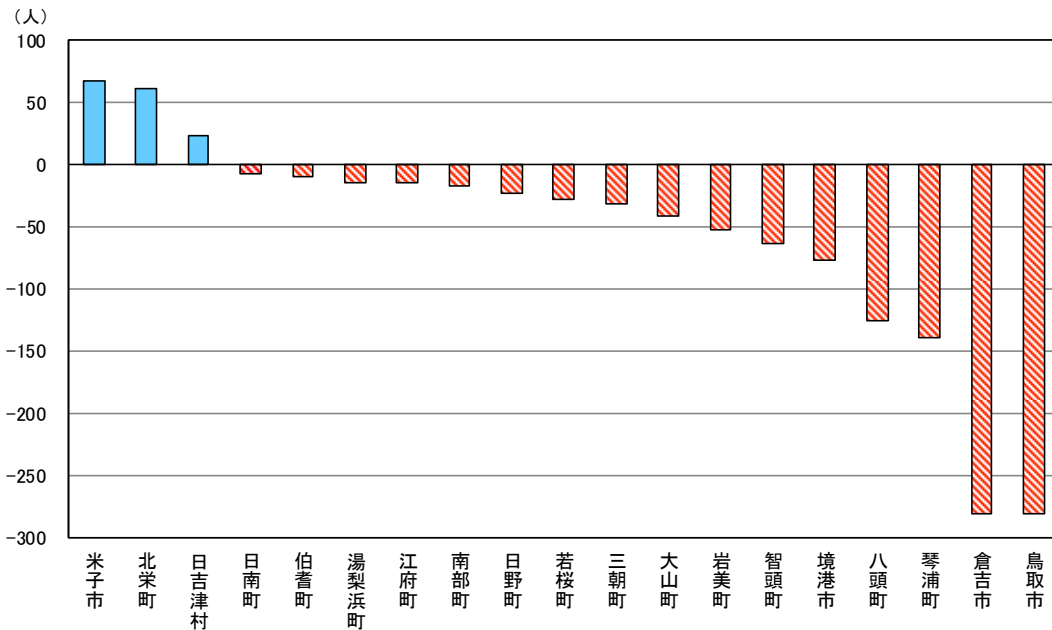


図16-2 市町村別社会増減率

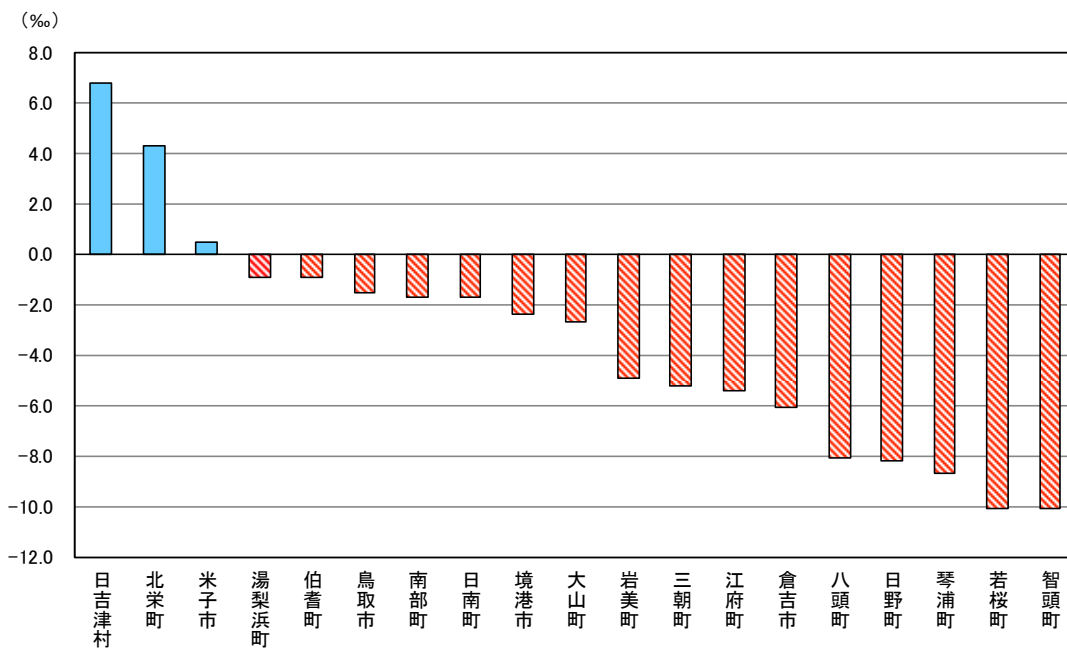


表 7 市町村別社会動態

(単位：人)

	県外			県内			社会増減数
	転入者数	転出者数	転入超過数	転入者数	転出者数	転入超過数	
県計	9,334	10,384	-1,050	5,699	5,699	0	-1,050
東部地区	3,406	3,989	-583	1,700	1,667	33	-550
中部地区	1,150	1,404	-254	1,354	1,503	-149	-403
西部地区	4,778	4,991	-213	2,645	2,529	116	-97
鳥取市	3,072	3,508	-436	1,254	1,099	155	-281
米子市	3,418	3,521	-103	1,543	1,372	171	68
倉吉市	617	716	-99	572	753	-181	-280
境港市	862	856	6	302	385	-83	-77
岩美町	127	165	-38	151	165	-14	-52
若桜町	25	33	-8	32	52	-20	-28
智頭町	91	104	-13	52	102	-50	-63
八頭町	91	179	-88	211	249	-38	-126
三朝町	67	77	-10	56	77	-21	-31
湯梨浜町	145	205	-60	303	257	46	-14
琴浦町	179	248	-69	162	232	-70	-139
北栄町	142	158	-16	261	184	77	61
日吉津村	45	47	-2	138	112	26	24
大山町	118	201	-83	249	207	42	-41
南部町	119	136	-17	132	132	0	-17
伯耆町	102	106	-4	153	159	-6	-10
日南町	49	52	-3	50	54	-4	-7
日野町	34	41	-7	49	65	-16	-23
江府町	31	31	0	29	43	-14	-14

注 1) 転入超過数とは、転入者数から転出者数を差し引いた数。転入超過数がマイナス（-）の場合は、転出超過を示す。

注 2) 地域別の県内転入者数及び県内転出者数の数値については、地域内市町村間の移動者を含む。

(2) 県内移動

県内移動で最も多いのは鳥取市から米子市及び米子市から鳥取市への 405 人

県内移動をみると、鳥取市から米子市への 405 人（男性 240 人、女性 165 人）及び米子市から鳥取市への 405 人（男性 214 人、女性 191 人）が最も多く、次いで境港市から米子市への 292 人（男性 151 人、女性 141 人）であった。

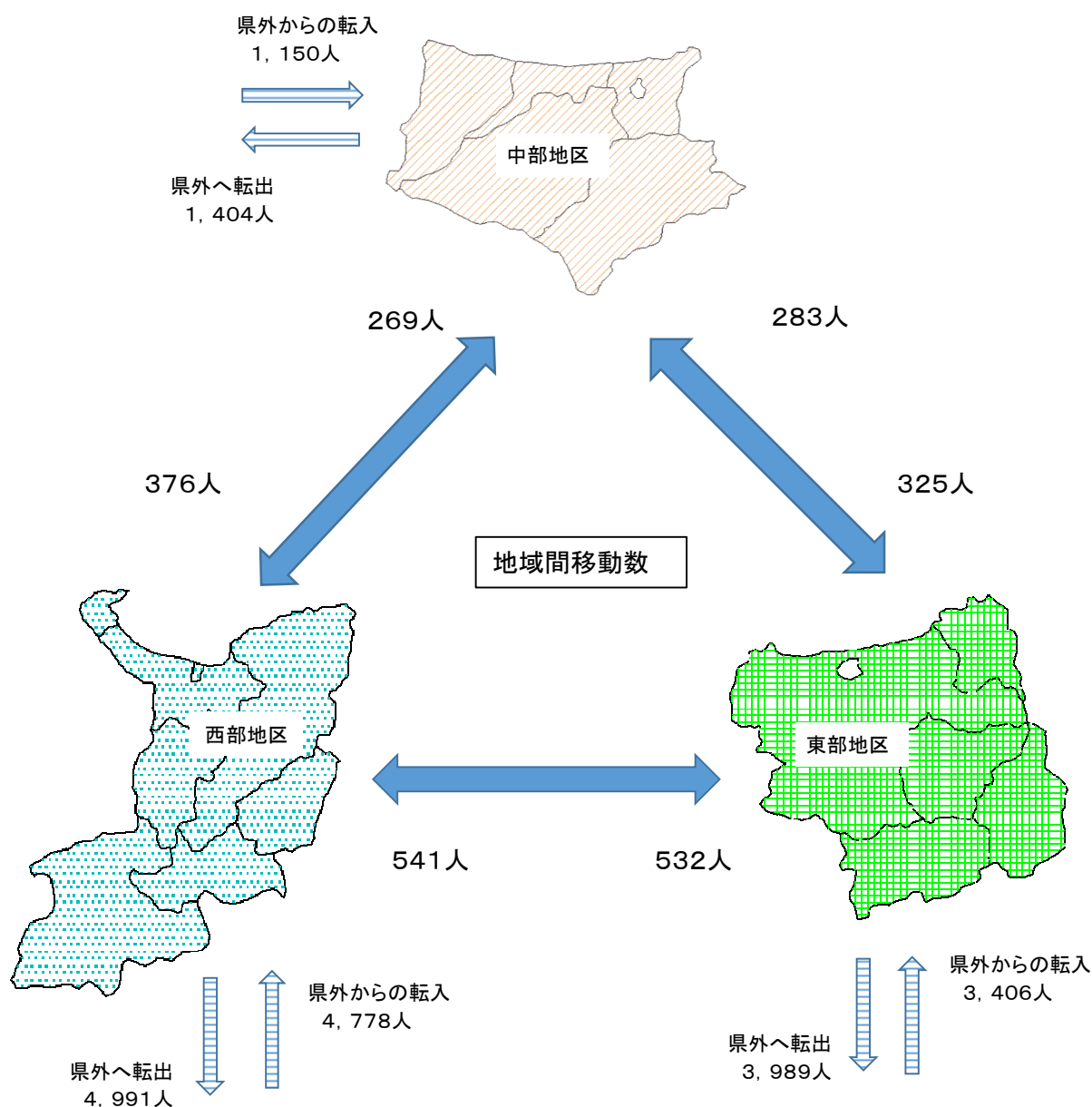
県内移動での転入超過は、米子市の 171 人（男性 95 人、女性 76 人）が最も多く、次いで鳥取市の 155 人（男性 47 人、女性 108 人）であった。

転出超過は、倉吉市の 181 人（男性 80 人、女性 101 人）が最も多く、次いで境港市の 83 人（男性 35 人、女性 48 人）であった。

また、県内移動を地域区分別にみると、東部から西部への 541 人（男性 317 人、女性 224 人）が最も多く、次いで西部から東部への 532 人（男性 284 人、女性 248 人）、中部から西部への 376 人（男性 186 人、女性 190 人）であった。

(図 17、統計表第 13 表)

図17 地域別社会動態(R2年10月～R3年9月)



県外との社会動態(県全体)

県外へ転出 10,384人

県外からの転入 9,334人

注) 地域間移動数は、地域内市町村間の移動者を含まない。

(3) 県外転入・県外転出

県外転入者で最も多いのは、島根県から米子市への735人、県外転出者で最も多いのは、米子市から島根県への556人

県外転入者で最も多いのは、島根県から米子市への735人(男性380人、女性355人)で、次いで兵庫県から鳥取市への387人(男性199人、女性188人)であった。

また、県外転出者で最も多いのは、米子市から島根県への556人(男性305人、女性251人)、次いで鳥取市から大阪府への447人(男性229人、女性218人)であった。

県外転入・県外転出での転入超過は、境港市の6人(男性14人、女性-8人)のみであった。

転出超過は、鳥取市の 436 人（男性 214 人、女性 222 人）が最も多く、次いで米子市 103 人（男性 61 人、女性 42 人）であった。

また、県外転入・県外転出を地域区分別にみると、県外転入者については東部では兵庫県から 438 人（男性 220 人、女性 218 人）が最も多く、次いで大阪府から 411 人（男性 217 人、女性 194 人）、中部では岡山県から 148 人（男性 87 人、女性 61 人）が最も多く、次いで大阪府から 147 人（男性 62 人、女性 85 人）、西部では島根県から 957 人（男性 490 人、女性 467 人）が最も多く、次いで岡山県から 412 人（男性 218 人、女性 194 人）であった。

県外転出者については東部では大阪府へ 517 人（男性 265 人、女性 252 人）が最も多く、次いで兵庫県へ 495 人（男性 227 人、女性 268 人）、中部では大阪府へ 158 人（男性 73 人、女性 85 人）が最も多く、次いで島根県へ 135 人（男性 69 人、女性 66 人）、西部では島根県へ 798 人（男性 439 人、女性 359 人）が最も多く、次いで大阪府へ 502 人（男性 251 人、女性 251 人）であった。（表8、統計表第14表）

表8 都道府県別県外転入・転出者数(上位市町村)

(単位:人)

都道府県	転入					転出				
	総数	米子市	鳥取市	境港市	その他	総数	米子市	鳥取市	境港市	その他
島根県	1,304	735	234	144	191	1,152	556	203	145	248
大阪府	930	351	244	95	240	1,177	447	369	77	284
岡山県	892	340	294	91	167	865	335	277	70	183
兵庫県	793	387	185	58	163	911	429	252	55	175
広島県	776	318	265	54	139	824	338	279	52	155
東京都	722	255	236	53	178	939	372	284	66	217
外国	464	181	119	41	123	470	190	63	49	168

(4) 4市における年齢5歳階級別、男女別県外転入転出

県外転入者、県外転出者とも20～24歳が最も多い。

【鳥取市】

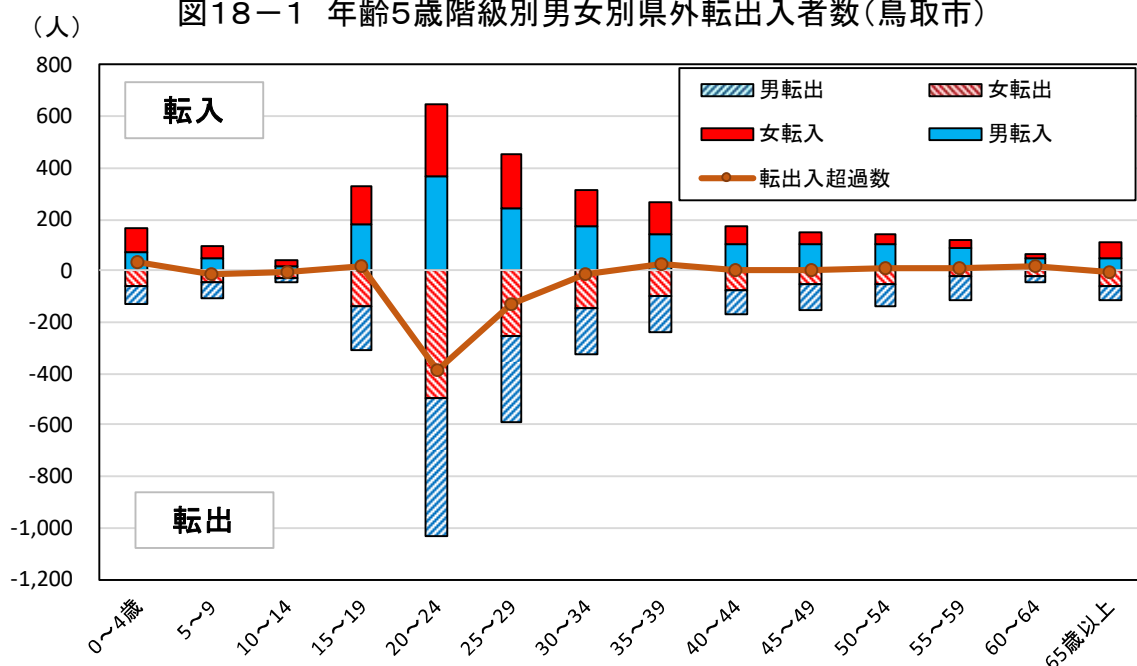
県外転入者は、20～24歳の645人（男性371人、女性274人：県全体の県外転入者総数に占める割合6.9%）が最も多く、次いで25～29歳の455人（男性242人、女性213人：同4.9%）であった。

県外転出者は、20～24歳の1,032人（男性540人、女性492人：県全体の県外転出者総数に占める割合9.9%）が最も多く、次いで25～29歳の585人（男性331人、女性254人：同5.6%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、0～4歳の34人（男性5人、女性29人）が最も多く、次いで35～39歳の27人（男性5人、女性22人）であった。

転出超過数は、20～24歳の387人（男性169人、女性218人）が最も多く、次いで25～29歳の130人（男性89人、女性41人）であった。（図18-1、統計表第15表）

図18-1 年齢5歳階級別男女別県外転出入者数(鳥取市)



【米子市】

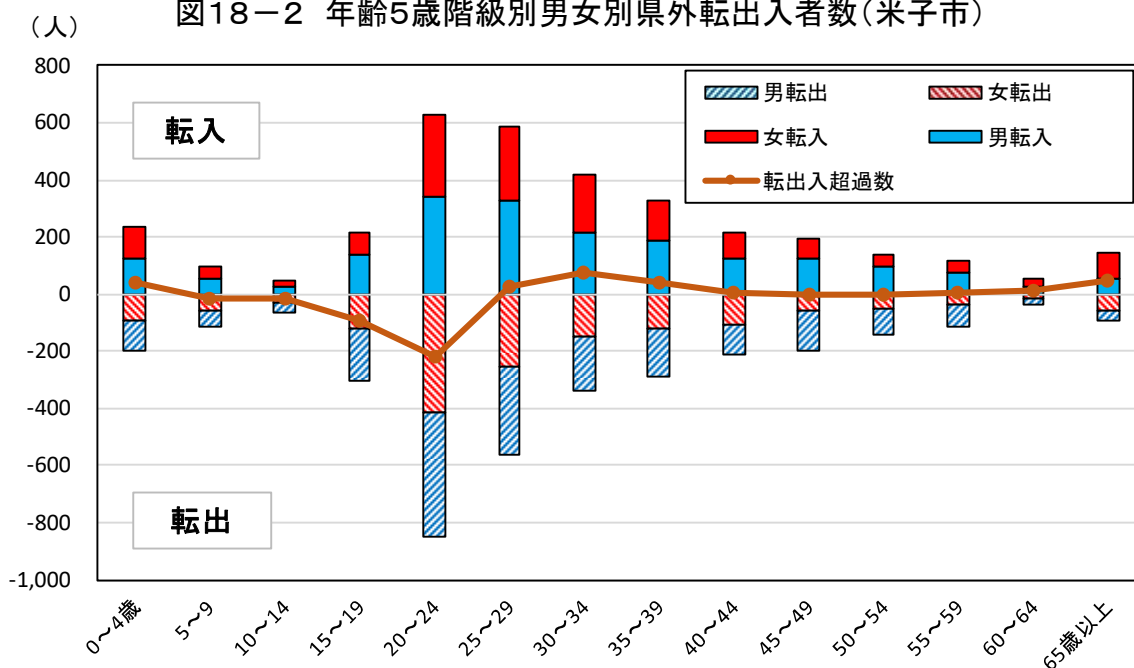
県外転入者は、20~24歳の631人(男性340人、女性291人：同6.8%)が最も多く、次いで25~29歳の586人(男性326人、女性260人：同6.3%)であった。

県外転出者は、20~24歳の849人(男性434人、女性415人：同8.2%)が最も多く、次いで25~29歳の562人(男性309人、女性253人：同5.4%)であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、30~34歳の77人(男性27人、女性50人)が最も多く、次いで35~39歳の41人(男性27人、女性14人)であった。

転出超過数は、20~24歳の218人(男性94人、女性124人)が最も多く、次いで15~19歳の92人(男性45人、女性47人)であった。(図18-2、統計表第15表)

図18-2 年齢5歳階級別男女別県外転出入者数(米子市)



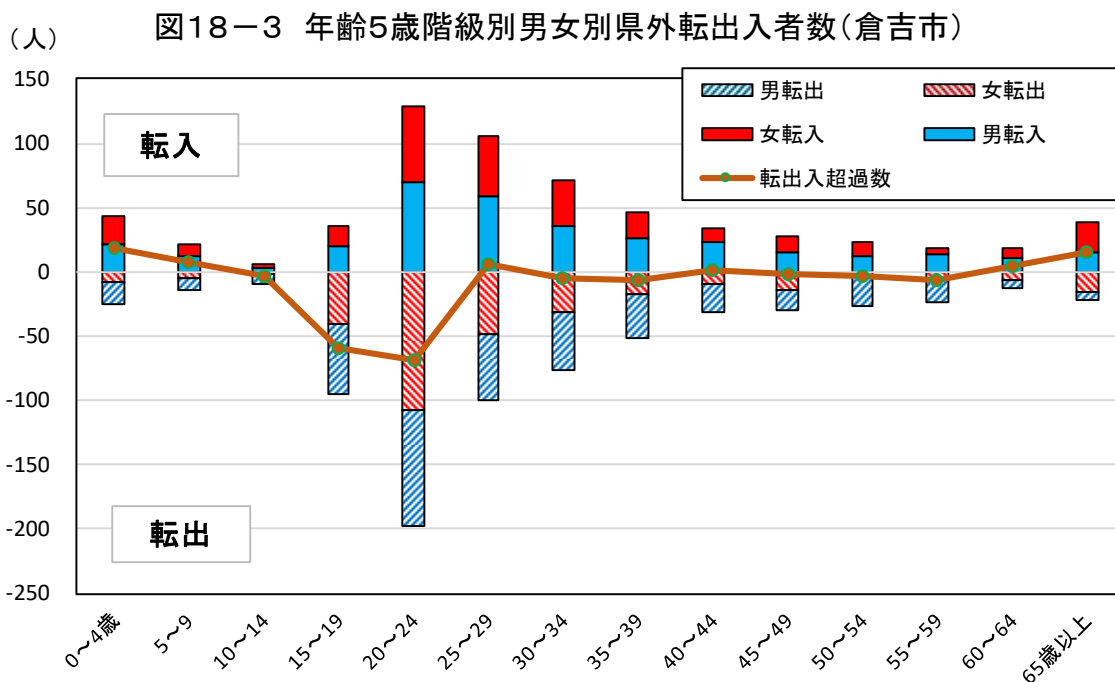
【倉吉市】

県外転入者は、20～24歳の129人（男性70人、女性59人：同1.4%）が最も多く、次いで25～29歳の105人（男性59人、女性46人：同1.1%）であった。

県外転出者は、20～24歳の198人（男性91人、女性107人：同1.9%）が最も多く、次いで25～29歳の99人（男性50人、女性49人：同1.0%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、0～4歳の18人（男性5人、女性13人）が最も多く、次いで70～74歳の11人（男性6人、女性5人）であった。

転出超過数は、20～24歳の69人（男性21人、女性48人）が最も多く、次いで15～19歳の60人（男性34人、女性26人）であった。（図18-3、統計表第15表）



【境港市】

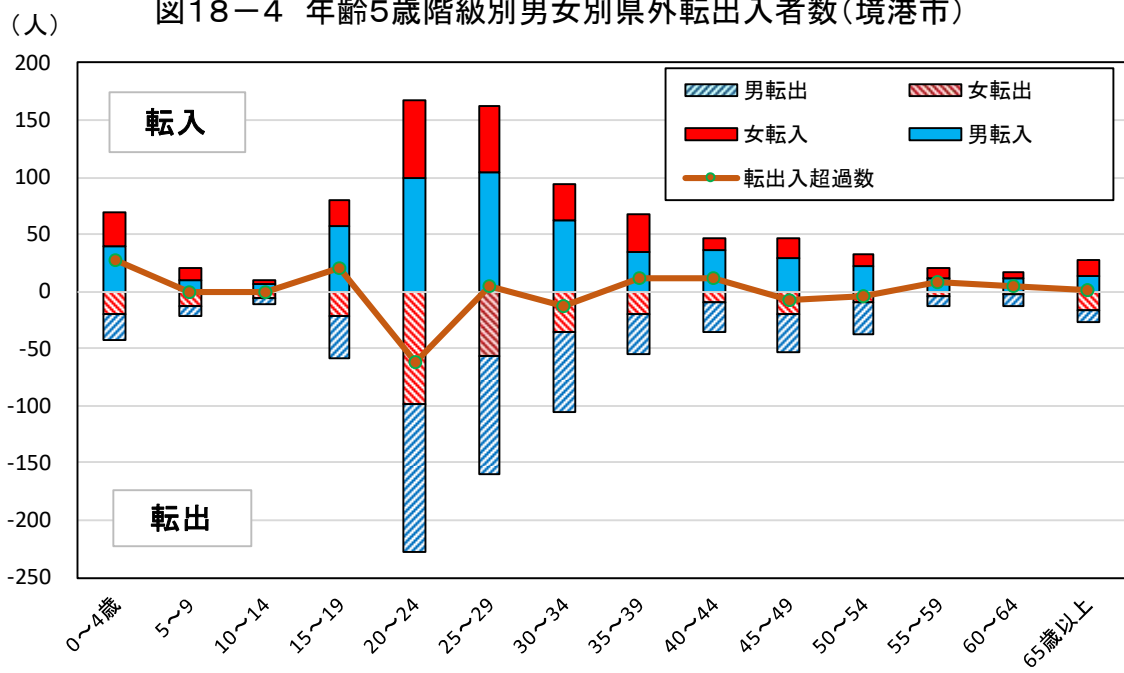
県外転入者は、20～24歳の167人（男性99人、女性68人：同1.8%）が最も多く、次いで25～29歳の163人（男性105人、女性58人：同1.7%）であった。

県外転出者は、20～24歳の228人（男性129人、女性99人：同2.2%）が最も多く、次いで25～29歳の159人（男性102人、女性57人：同1.5%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、0～4歳の27人（男性16人、女性11人）が最も多く、次いで15～19歳の21人（男性21人）であった。

転出超過数は、20～24歳の61人（男性30人、女性31人）が最も多く、次いで30～34歳の12人（男性8人、女性4人）であった。（図18-4、統計表第15表）

圖18-4 年齡5歲階級別男女別省外轉出入者數(境港市)



<参考> 外国人（国籍不詳を含む）の推計人口

1 推計人口と世帯数

- ・令和3年10月1日現在の推計人口（国籍不詳を含む。以下同じ。）は、9,230人で前年に比べ198人減少
- ・男女別人口は、男性3,973人、女性5,257人で、人口性比は75.6（P.3表1）

2 年齢別3区分別人口

- ・年少人口は219人、生産年齢人口は3,636人、老年人口は416人
- ・年少人口割合は5.1%、生産年齢人口割合は85.1%、老年人口割合は9.7%
- ・年齢5歳階級別人口は、男女とも20～24歳が最も多く（男性279人、女性439人）次いで男女とも25～29歳が多い（男性258人、女性402人）（P.6表2、表3）

3 市町村別推計人口

- ・市町村別の推計人口は、米子市の3,998人（男性1,667人、女性2,331人）が最も多く、次いで鳥取市の3,201人（男性1,612人、女性1,589人）（表9）

表9 市町村別推計人口、年齢3区分別人口

(単位:人)

区分	推計人口			年齢3区分別人口		
	総数	男	女	年少人口	生産年齢人口	老年人口
県計	9,230	3,973	5,257	219	3,636	416
鳥取市	3,201	1,612	1,589	90	1,119	110
米子市	3,998	1,667	2,331	88	1,043	175
倉吉市	480	219	261	11	212	30
境港市	550	158	392	10	401	37
岩美町	73	35	38	2	65	1
若桜町	29	4	25	0	29	0
智頭町	33	7	26	0	32	1
八頭町	68	8	60	4	62	2
三朝町	66	29	37	7	53	2
湯梨浜町	83	20	63	0	70	4
琴浦町	195	58	137	3	173	19
北栄町	101	28	73	2	92	4
日吉津村	49	14	35	0	20	10
大山町	113	41	72	0	100	13
南部町	83	37	46	0	79	1
伯耆町	58	20	38	1	38	6
日南町	24	14	10	0	23	1
日野町	17	1	16	1	16	0
江府町	9	1	8	0	9	0

注) 推計人口に年齢不詳は含まれるが、年齢3区分に年齢不詳は含まれない。

4 自然動態

- ・出生数は11人（男性4人、女性7人）
- ・死亡数は14人（男性10人、女性4人）（表10）

表10 自然動態(外国人)

(単位:人)

月次	出生			死亡		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	11	4	7	14	10	4
10月	1	1	0	1	1	0
11月	2	0	2	2	2	0
12月	1	0	1	1	1	0
1月	1	1	0	2	2	0
2月	0	0	0	2	0	2
3月	0	0	0	0	0	0
4月	1	0	1	1	1	0
5月	0	0	0	2	1	1
6月	2	1	1	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0
8月	3	1	2	0	0	0
9月	0	0	0	3	2	1

5 社会動態

(1) 県内移動

- ・県内移動者数は63人（男性27人、女性36人）
- ・転入が最も多いのは米子市の11人（男性6人、女性5人）
- ・転入超過数は、倉吉市の8人（男性4人、女性4人）が最も多く、転出超過数は、鳥取市の8人（男性8人）が最も多い。

(2) 県外転入・県外転出

- ・県外転入者数は805人（男性409人、女性396人）で、県外転出者数は1,000人（男性475人、女性525人）
- ・県外転入者数で最も多いのは、鳥取市の283人（男性152人、女性124人）で、次いで米子市の224人（男性108人、女性116人）
- ・県外転出者数で最も多いのは、鳥取市の299人（男性152人、女性147人）で、次いで米子市の202人（男性106人、女性96人）
- ・転入超過数は、米子市の22人（男性2人、女性20人）が最も多く、転出超過数は、倉吉市の57人（男性31人、女性26人）が最も多い。（表11）

表11 市町村別社会動態(外国人)

(単位:人)

	県外							県内							社会増減数
	転入者数			転出者数			転入超過数	転入者数			転出者数			転入超過数	
	総数	男	女	総数	男	女		総数	男	女	総数	男	女		
県計	805	409	396	1,000	475	525	-195	63	27	36	63	27	36	0	-195
東部地区	319	171	148	388	185	203	-69	19	8	11	20	10	10	-1	-70
中部地区	125	67	58	207	89	118	-82	23	9	14	16	4	12	7	-75
西部地区	361	171	190	405	201	204	-44	21	10	11	27	13	14	-6	-50
鳥取市	283	159	124	299	152	147	-16	10	2	8	18	10	8	-8	-24
米子市	224	108	116	202	106	96	22	11	6	5	13	5	8	-2	20
倉吉市	35	26	9	92	57	35	-57	9	4	5	1	0	1	8	-49
境港市	81	37	44	113	52	61	-32	4	0	4	7	5	2	-3	-35
岩美町	29	6	23	41	15	26	-12	3	3	0	0	0	0	3	-9
若桜町	0	0	0	3	0	3	-3	2	0	2	0	0	0	2	-1
智頭町	4	4	0	39	15	24	-35	2	2	0	2	0	2	0	-35
八頭町	3	2	1	6	3	3	-3	2	1	1	0	0	0	2	-1
三朝町	12	6	6	13	3	10	-1	2	0	2	0	0	0	2	1
湯梨浜町	9	2	7	25	5	20	-16	4	2	2	5	0	5	-1	-17
琴浦町	51	25	26	52	19	33	-1	3	1	2	6	1	5	-3	-4
北栄町	18	8	10	25	5	20	-7	5	2	3	4	3	1	1	-6
日吉津村	0	0	0	3	1	2	-3	0	0	0	1	1	0	-1	-4
大山町	24	10	14	32	18	14	-8	4	3	1	2	1	1	2	-6
南部町	23	11	12	36	16	20	-13	2	1	1	1	1	0	1	-12
伯耆町	3	2	1	3	1	2	0	0	0	0	2	0	2	-2	-2
日南町	3	2	1	7	6	1	-4	0	0	0	0	0	0	0	-4
日野町	0	0	0	5	0	5	-5	0	0	0	1	0	1	-1	-6
江府町	3	1	2	4	1	3	-1	0	0	0	0	0	0	0	-1

注1) 転入超過数とは、転入者数から転出者数を差し引いた数。転入超過数がマイナス(-)の場合は、転出超過を示す。

注2) 地域別の県内転入者数及び県内転出者数の数値については、地域内市町村間の移動者を含む。